

# がん治療の最前線

## 「喉頭がん・食道がん」

### — 食道癌の治療の実際 —

食道癌の概要

食道癌の内視鏡的治療

食道癌の外科治療

食道癌の放射線治療

広島市立広島市民病院  
拠点病院（K-net）

外科 大野聡 原野雅生  
内科 中川昌浩  
放射線科 伊東淳

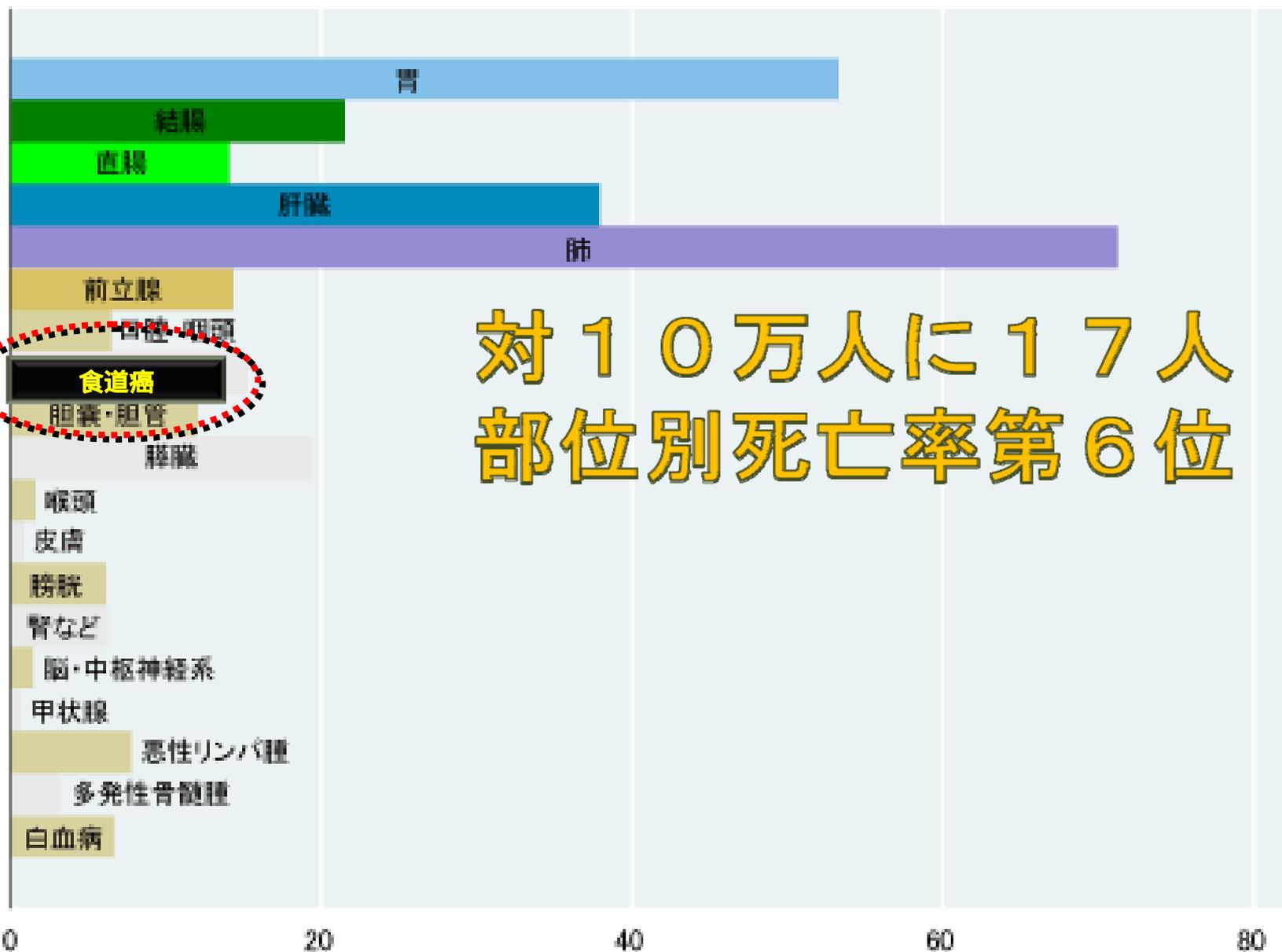
2008.3.13

**食道癌は60歳台の男性に多く見られる病気で、日本では毎年 15,000人の方が食道癌にかかっています。**

## **食道癌になりやすい人**

- (1)50歳以上の男性**
- (2)喫煙者や大量飲酒者**
- (3)頭頸部癌になった方**
- (4)バレット食道や腐食性食道炎、食道アカラシアなどの食道の病気になられた方**
- (5) ALDH2部分欠損症 former flusher**

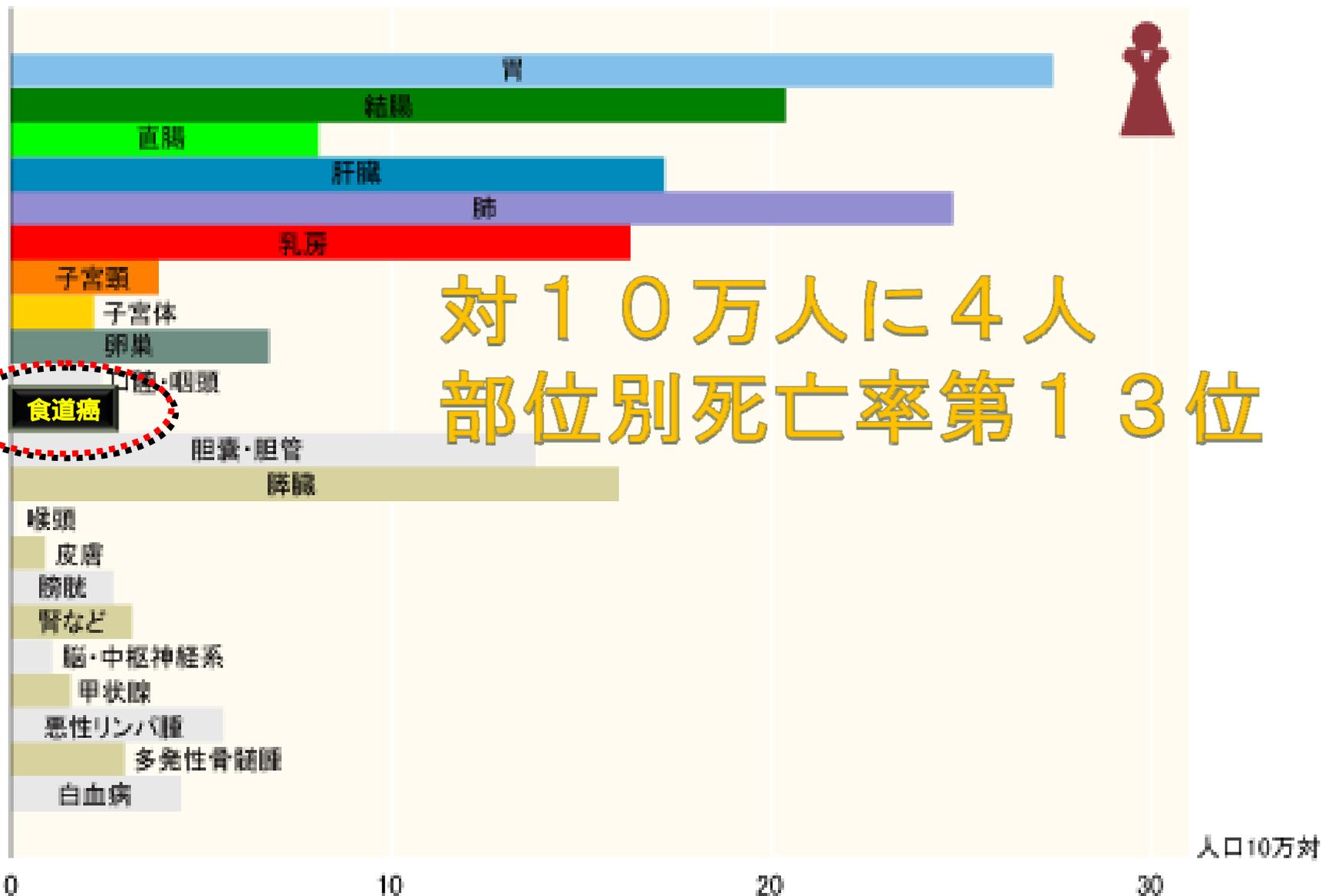
# 部位別癌死亡率：2004年：男性



対10万人に17人  
部位別死亡率第6位

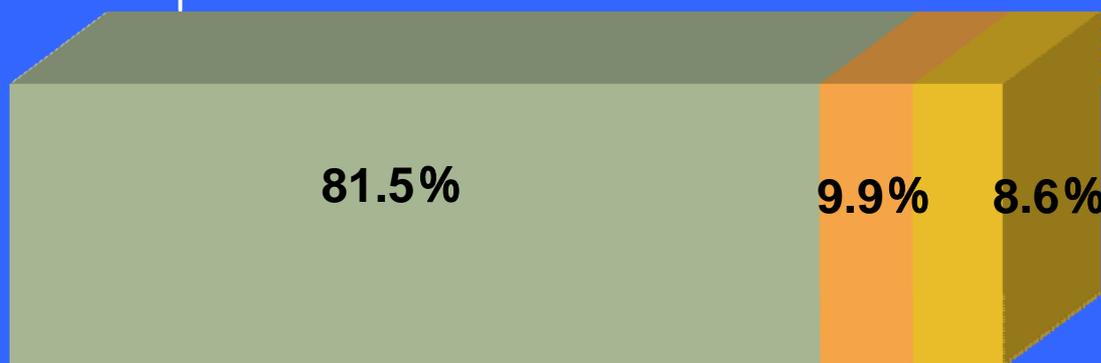
人口10万対

# 部位別癌死亡率：2004年：女性

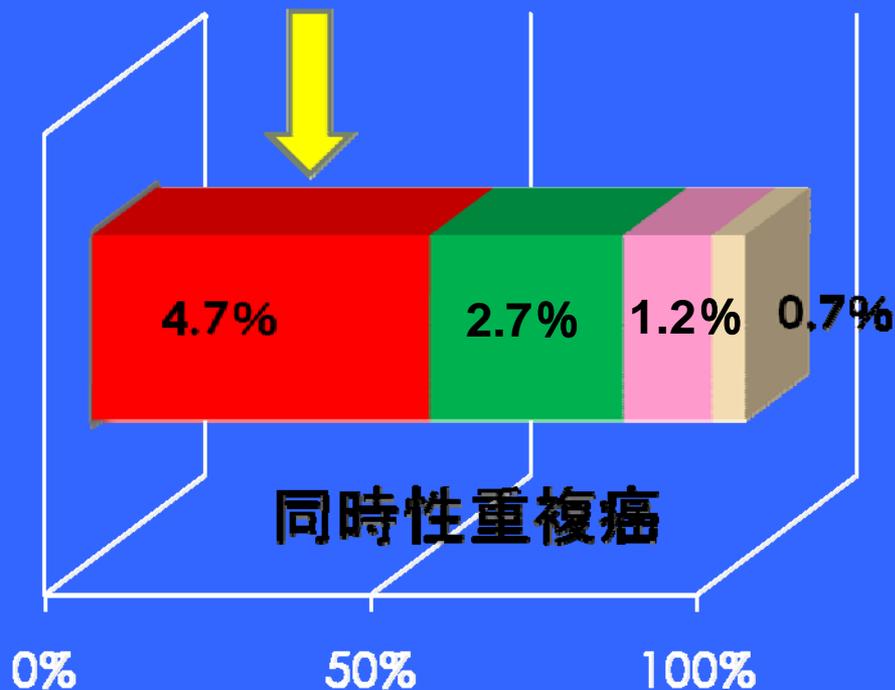


# 食道癌重複癌

6132例中 (1998, 1999)

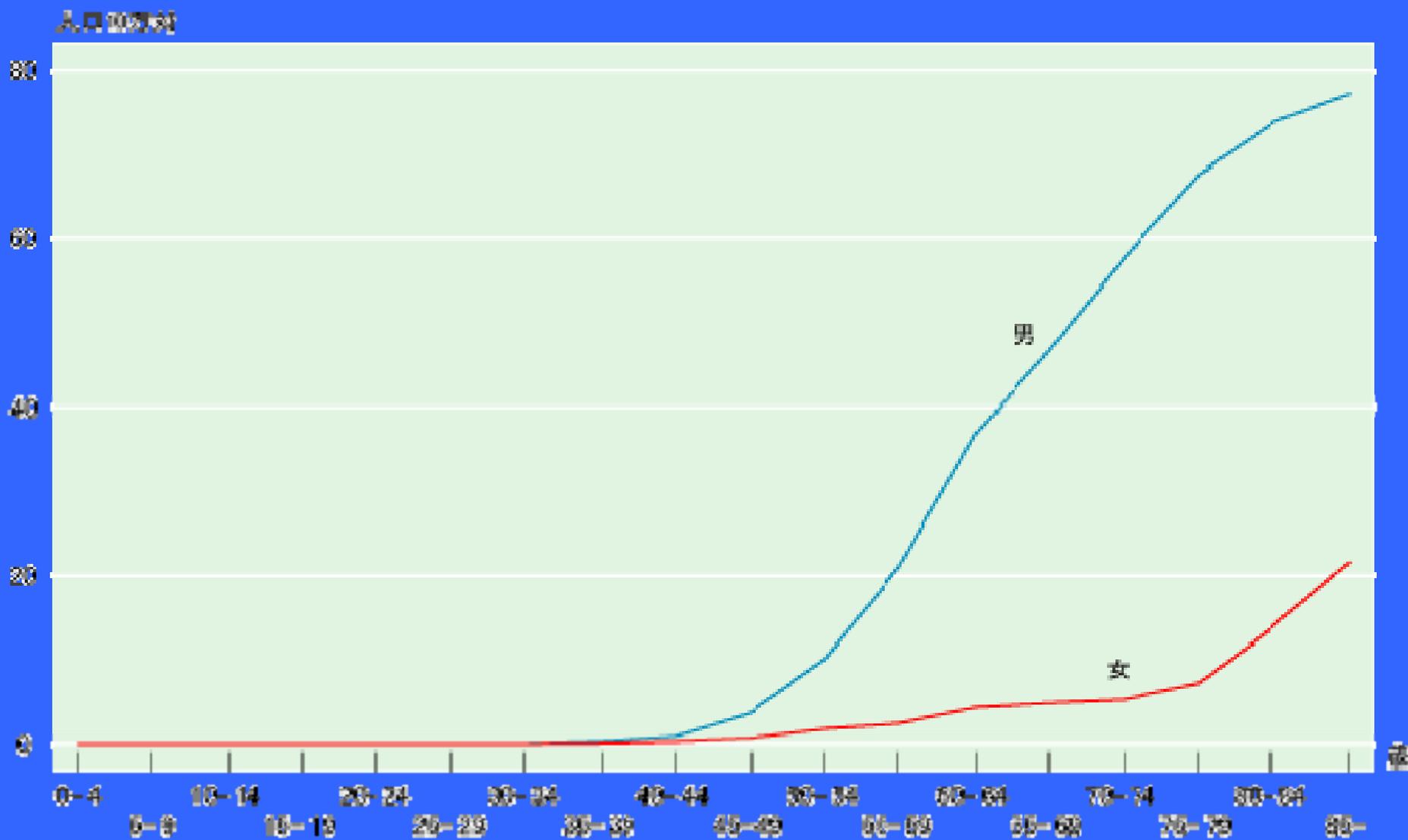


- 單發
- 同時性重複癌
- 異時性重複癌



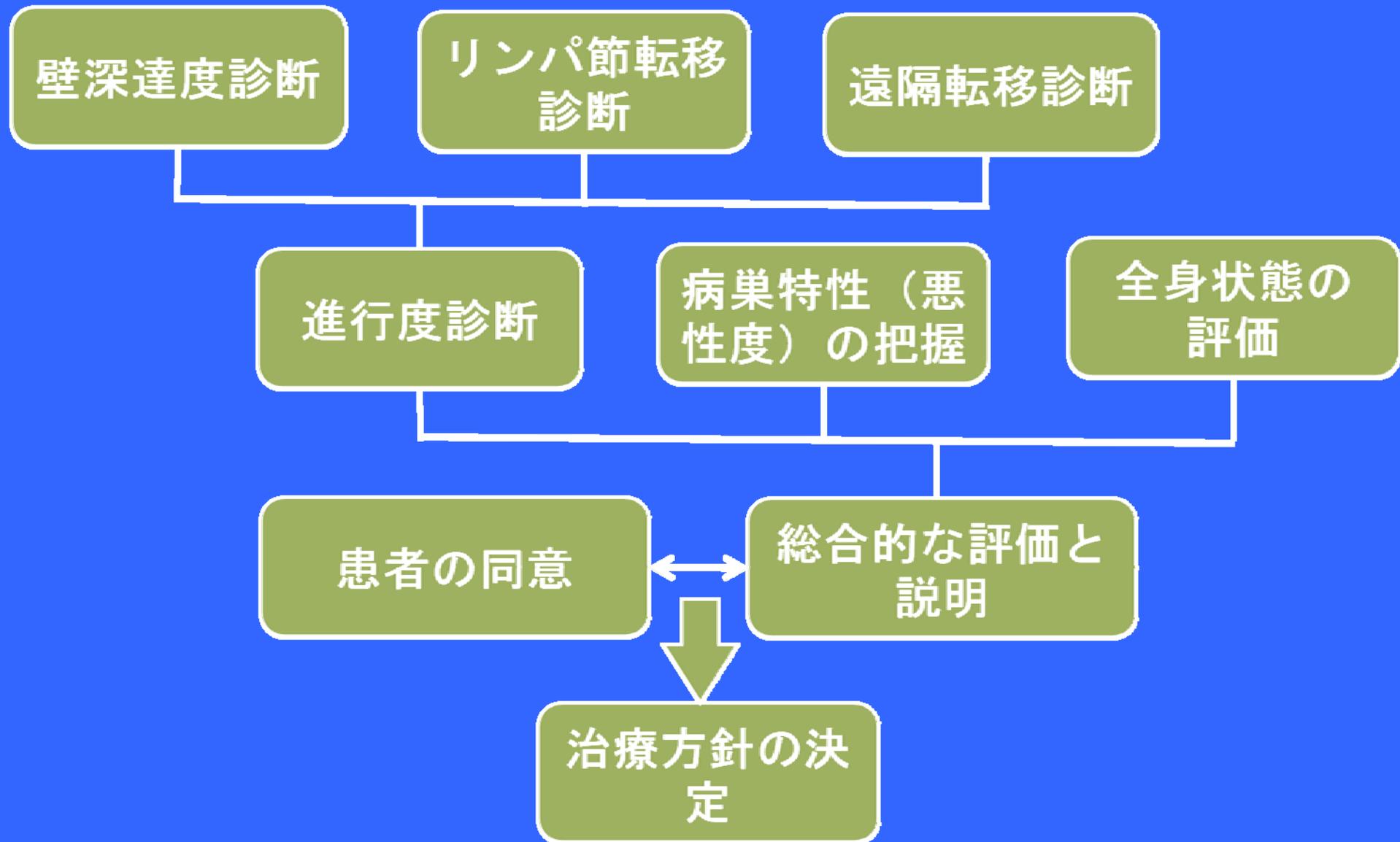
- 胃癌
- 頭頸部癌
- 大腸癌
- 肺癌

# 年齢別がん死亡率(食道 2004年) 男女



資料：人口動態統計

# 食道癌の治療方針決定までの流れ



# 食道癌の治療法の変化に伴う 画一的治療指針を決定することの困難さ

## 患者側の要因

高齢者に多い

臓器障害が多い（喫煙：肺機能障害

アルコール多飲：肝機能障害）

## 施設間格差

high volume center：多数の症例数、ICUなどの設備

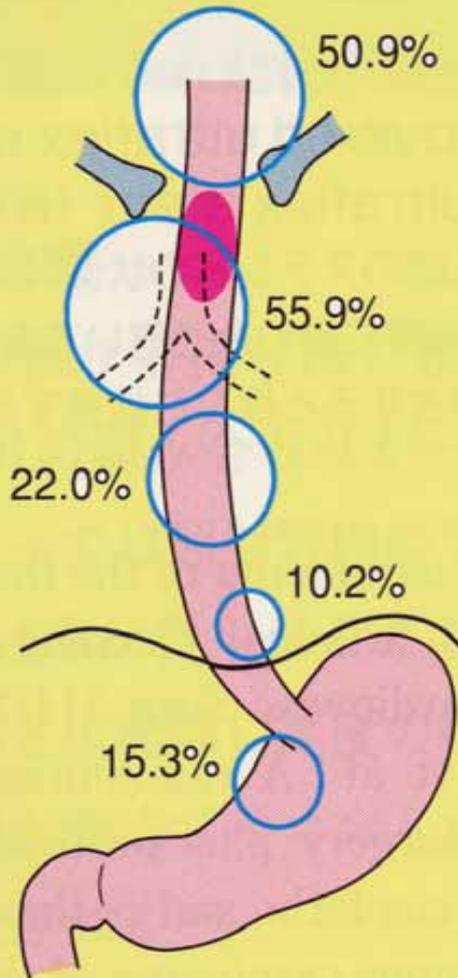
## 食道癌の生物学的特異性

抗がん剤・放射線に高感受性

高頻度のリンパ節転移

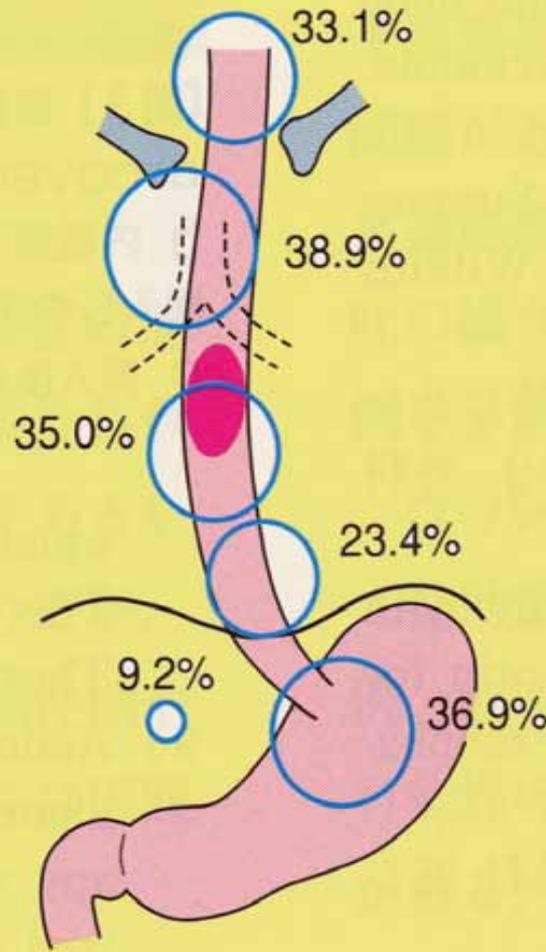
多臓器転移

# 胸部食道進行癌リンパ節転移状況 (T2.T3)



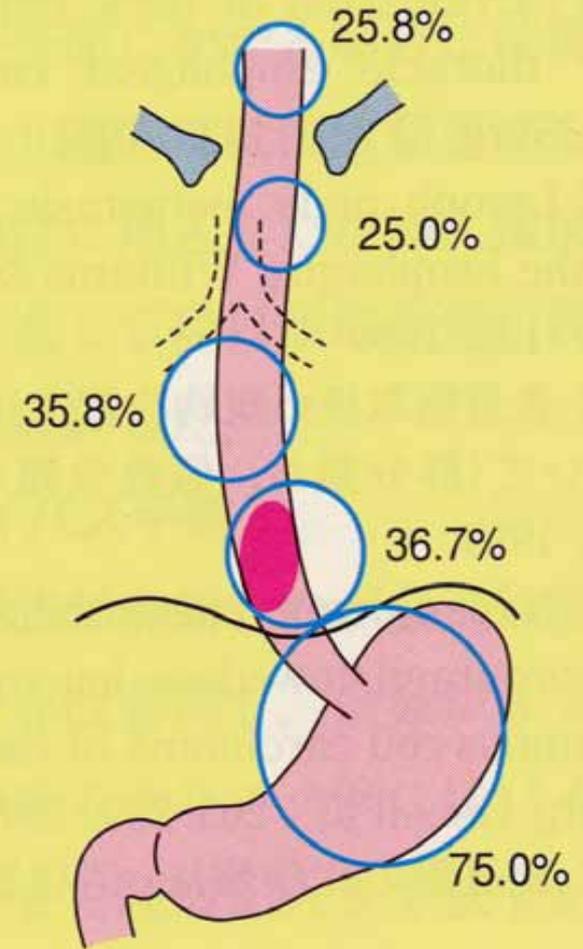
Ut : 59例

74.6%



Mt : 260例

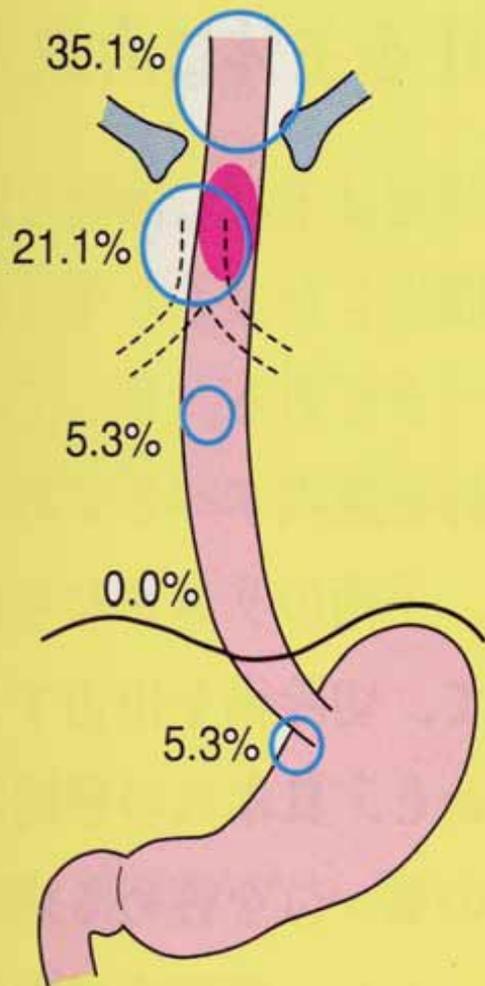
67.7%



Lt : 120例

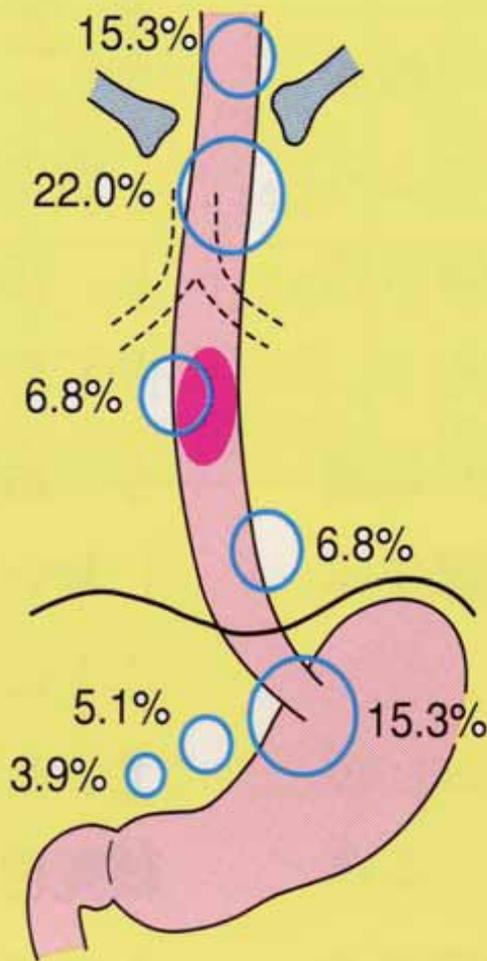
83.3%

# s<sub>m</sub>癌症例のリンパ節転移状況



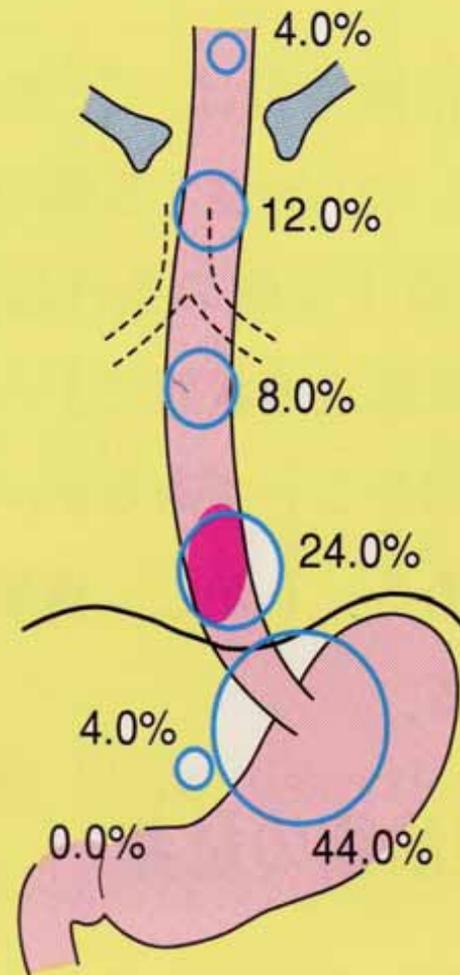
lu : 19例

36.8%



lm : 59例

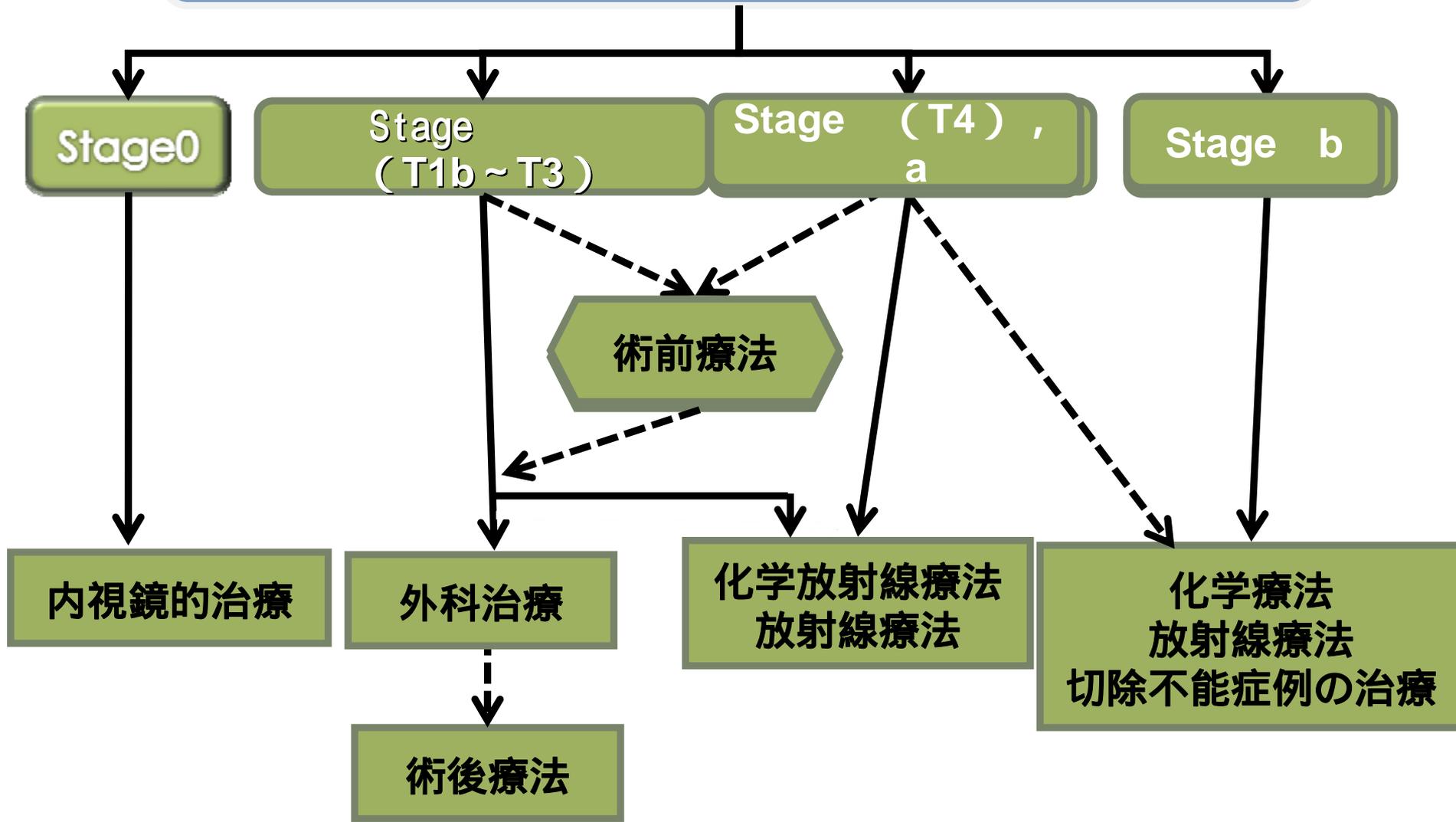
39.0%



ei : 25例

56.0%

食道造影,内視鏡検査,病理検査,EUS,CTなど



# 難治性癌から治る癌に

1970年後半は食道癌で治る方はほとんどいなかった。

1990年代前半は食道癌の治癒率は20%台。

2000年近年になって40%台の治癒率が出せれば一流の施設。

しかし胃癌大腸癌に比べれば、まだまだ半分から2/3ぐらい。

- ・high risk groupの抽出と早期発見。
- ・高度進行食道癌の予後の改善に集学的治療

# 食道癌治療の方向性 Surgery & CRT

本邦の食道癌治療成績を備載してみると、癌専門施設や症例数の多い施設における外科治療成績は、CRTの成績より若干良好である。現状では、手術可能食道癌においては、外科手術を軸に考えるのが標準であろう。特に今後は、術前治療に力点を置いた治療開発（術前のCTやCRT）を行っていく必要があると思われる。

CRTについては、標準的治療である外科手術のオプションであり、世界標準の化学療法（高用量の5-FU + CDDP療法）の導入、放射線照射方法の見直し、サルベージ手術の確立、術前CTの導入などを検討することで、治療成績の向上を図っていくべきである。今後は、各々の治療法で更なる治療成績向上を目指し、各々の治療法の特徴や利点を生かした治療開発が求められると考えられる。

第61回日本食道学会ランチョンセミナー  
愛知がんセンター中央病院・薬物療法部  
室圭介 2007年